

私が敬愛した明治生まれの古老司書達と 京都図書館協会青年部・大学図書館問題研究会・ 貸本文化研究会の仲間達

廣庭 基介

花園大学文学部客員教授

まず何をさておき、本研究会の担当幹事が、何故に私を講演者に呼ぼうと思われたのか、その由来について思い悩みました。多分、私が京大の附属図書館や文学部図書室、法学部図書室で働いている時にも、退職後も、つたない幾つかの論文、それは京大の図書館長や司書の伝記、京大所蔵の江戸時代貸本屋の旧蔵書の来歴などですが、それらを発表してきたことを御存知になっているからだろうとは拝察致しますが、私の扱った対象は、医学情報サービス研究大会に結集される皆様にとっては関心が持てないかも判りません。

何とかお話しするきっかけを得ようとして、私をよく知る友人や家内に対して、私という人間の持つ奇異な癖、人と違う所、感心するところを指摘してもらうことにしました。出されました答えが (1)老人が好きで、老人をおだてたり、お上手を云ったりして、老人に好かれる特技。(2)何にでも興味をもち、興味を持った事物の写真を撮りまくり、関連グッズを蒐集する。蒐集癖が強い。という2点になりました。

この2点の私の癖、特徴をキーワードにして、逆に私が調べてきた京大創設期の大司書や、私が実際に訾咳に接した明治生まれのOB司書達のユニークな癖や特徴などをお話し致します。

- 1：島文次郎初代図書館長の生涯を調べるようになったきっかけ。
- 2：笹岡民次郎第一号司書への関心の動機を回想する。笹岡は、私に図書館実務を叩き込んだ谷口寛一郎司書を愛弟子として育てた人。
- 3：私は竹林熊彦第七代司書官に生前に逢い、その最後の入院を見舞ったこと。
- 4：私の貸本屋史と京大『大惣本』と野間光辰先生（『定本西鶴全集』の著者）の「今どきの司書」への言葉。八事墓地公園での大惣の墓探し。
- 5：『日本書誌学を学ぶ人のために』と共著者・長友千代治博士のこと。
- 6：先達にして、上司でもあった古老司書達の回想。谷口寛一郎・天野敬太郎・佐々木乾三・鈴鹿 蔵・伊藤祐昭・岩猿敏生・石井 敦・村橋ルチア・河本芳子。
- 7：京都図書館協会青年部・日本図書館研究会・貸本文化研究会・大学図書館問題研究会で知友となった若かりし頃の司書達。